

「世界へジャンプ！～世界を知ろう 日本を知ろう～」

氏名：近藤 美鈴 学校名：愛媛県西条市立橘小学校  
 担当教科：小学校全教科（理科・音楽以外） 実践教科：学級活動・道徳  
 時間数：6時間 対象学年：小学6年生 人数：19人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：世界へジャンプ！		
パラグアイの文化を体験したり、学んだりすることを通して国際理解を深め、自分の生き方を見直し、今の自分にできることを考え、行動しようとする意欲をもつ。		
【2】 単元の評価 規準例	（ア）関心・意欲・態度	パラグアイの文化や人々の生活に関心をもつ。
	（イ）思考・判断・表現	パラグアイの文化や人々の生活を知り、自分の生き方を見直し、自分にできることを考えたり、日本のよさを再認識したりする。
	（ウ）技能	パラグアイの話や動画・写真などからパラグアイのよさや考えたことを発表する。
	（エ）知識・理解	パラグアイと日本の文化の共通点や違いを知る。
【3】 単元設定の理由	<p>○児童観                      本学級の児童は、男子8名、女子11名の19名である。外国人との交流と言えば、ALTの先生が主であり、外国については、社会科学習で諸外国との関係を学んだり、外国語活動の時間に外国の文化や人々の生活について学んだりしている。テレビ番組でも、外国で活躍する日本人の番組や日本に住む外国人の情報が多く取り上げられる今日、子どもたちは外国の文化を知る機会が増えつつある。しかし、外国について興味はあるが、まだまだ未知の世界であり、知る機会も少ないというのが現状である。</p> <p>○教材観                      2020年に東京オリンピックを控え、今後の日本は、諸外国との関係が一段と強まり、外国人が日本を訪れる機会もさらに増えることが予想される。私たちが住む西条市にも、たくさんの外国人が生活するようになった。そんな世界を身近に感じられるようになった子どもたちには、国や民族・思想や文化の違いを乗り越え、地球規模の視野に立って様々な課題を解決し、よりよい未来を築いていく力が必要とされる。今の日本の豊かな生活水準も、諸外国との関わりなしには維持できない状況になっているにもかかわらず、私たちはそれをほとんど意識することなく生活している。21世紀を生きていく子どもたちが、今後の国際社会の中でよりよく生きるために、外国人の考えや文化に触れたり、交流したり、学んだりすることにより、互いの文化の違いや共通点を認め合う国際人としての感覚を育てたいと考え、本単元を設定した。</p>	
✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観		

	<p>○ 指導観</p> <p>本單元では、まず、担任が教師海外研修で行くことになったパラグアイについての基礎情報を知り、パラグアイの子どもたちに手紙を書くことからスタートする。手紙を書くことは、自分の書いた手紙が実際にパラグアイの子どもたちに届くことへの期待感やパラグアイへの興味につながるだろう。担任の帰国後は、「パラ祭り」と題して、パラグアイ料理のチーパづくりを体験し、パラグアイの伝統的な飲み物であるお茶「マテ茶」を共に飲食することでパラグアイの文化に触れさせたい。そしてパラグアイの写真と共にパラグアイの文化や生活の様子について学ばせる。その後、道徳の授業として、パラグアイのスラム街に住む子どもたちが演奏者という夢をもち、ゴミを楽器に変えたりサイクルオーケストラとして世界で活躍する姿を取り上げた絵本「スラムにひびくバイオリン」を題材に取り上げる。ゴミの中で暮らし、貧困という現実の中で必死に生きる子どもたちの姿、その子どもたちが夢を叶え、世界に羽ばたく姿を通して自分の生き方を振り返らせたい。そして、今の自分にできることを考え、行動していく意欲をもつことや、日本のよさを再認識して欲しいと考えている。</p>
--	---

**【4】展開計画（全 6 時間）**

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更して下さい。

※活動・内容の部分は具体的に記載下さい。適宜写真を添付下さい。

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p>「パラグアイとつながろう」</p> <p>未知なる国「パラグアイ」に興味・関心をもつことや、自分たちの書いた手紙が実際にパラグアイの子どもたちに届くことへの期待感が高まることで、今後の国際理解教育に主体的に参加出来るようになる。</p>	<p>①パラグアイの基本情報を知る。 (位置、面積、人口、気候、言語等)</p> <p>②パラグアイという未知の国に対して、知りたいことを話し合う。</p> <p>③パラグアイの子どもたちに手紙を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・世界地図</li> </ul>
2 3 4	<p>「パラ祭りをしよう！」</p> <p>パラグアイ料理「チーパ」作りを体験したり、パラグアイの写真や動画を見たりすることで、パラグアイと日本の生活様式や文化の違いを知り、世界の多様性や面白さに気付くことができる。</p>	<p>①橘小学校からパラグアイに行ってみる。 (Google Earth)</p> <p>②パラグアイO×クイズ</p> <p>③ 写真や動画などからパラグアイの文化や生活の様子を知る。</p> <p>④日本との違いや共通点を話し合う。</p> <p>⑤感想を発表する。</p> <p>⑥パラグアイ料理「チーパ」づくりを体験し、パラグアイの伝統的な飲み物である「マテ茶」と共に飲食し、パラグアイの文化に触れる。</p> <p>⑦感想を話し合う。</p> <p>⑧パラグアイの文化や生活様式についてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板</li> <li>・パラグアイの国旗</li> <li>・世界地図</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・チーパ粉</li> </ul>

<p>5 6 本時</p>	<p>道徳 「スラムにひびく バイオリン」 内容項目：4-⑧ ○世界には、スラム街のよ うな貧しく、困難な状況 で生活している子どもた ちがいるという現実を理 解する。  ○今の自分の生き方を見直 し、より高い目標を立て、 希望をもって生きていこ うとする心情を育てる。</p>	<p>①日本は貧しい国か豊かな国かを話し合 う。 ②カテウラのリサイクル音楽団の演奏を 聴く。 ③絵本「スラムにひびくバイオリン」の話 を聞く。 ⑥スラム街の写真を見て話し合う。 ⑦アーダの生き方について話し合う。 ⑧自分を振り返る。 ⑨これからの自分の生き方に意欲をもつ。</p>	<p>・ 絵本 「スラムにひびく バイオリン」 (汐文社) ・ プレゼンテーション ・ 挿絵 ・ 写真 ・ ワークシート</p>
-----------------------	---	---	--

【5】 本時の展開

※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。

※詳細に記載ください。

過程	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入	<p>1. 日本は貧しい国か豊かな国 かについて話し合う</p>	<p>・ 生活水準を見たときに、日本は豊 かな国であり、パラグアイは貧し い国であることを押さえる。</p>	
展開	<p>2. カテウラのリサイクルオー ケストラの演奏を音声だけで 聴いて、何の楽器が使われて いるかを話し合う。</p> <p>3. 「スラムにひびくバイオリ ン」の絵本を読んで話し合う。 ・ カテウラ地区の写真を見 て、感じたことを話し合う。 ・ ごみに囲まれた町の中で 生活しているアーダは、ど んな気持ちでいるかを話し 合う。 ・ 自分だけのバイオリンを 手にしたときのアーダの気 持ちを考える。 ・ アーダの生き方について 考え、自分の生き方を振り 返し、これからの自分の生</p>	<p>・ 映像を使わず、音声だけで聴くこ とにより、楽器の音色だけに集中 させる。 ・ どんな楽器が使われているのか、 どんな人が演奏しているのかな ど、自由に話し合わせる。</p> <p>・ 先に文だけの資料を配り、各自で 読ませてから、挿絵を電子黒板で うつし、絵本を読み聞かせる。</p> <p>・ 世界には、貧しい国がたくさん あることや困難な状況の中で生 活している人達がいるが、その人</p>	<p>・ カテウラのリサイク ルオーケストラの音 声</p> <p>・ 絵本 「スラムにひびく バイオリン」 (汐文社) ・ カテウラ地区の写真 ・ 挿絵 ・ リサイクル楽器の写 真</p> <p>・ ワークシート</p>

<p>まとめ</p>	<p>き方について考える。</p> <p>4. 教師の説話を聞く。</p>	<p>たちすべてが不幸せなわけではないことを押さえる。大切なのは、どんな状況の中でも、夢や希望をもつことで、心の豊かさが得られることを、アーダの生き方から学ばせたい。</p> <p>・教師が実際に行って目にしてきたパラグアイ。そこに住むたくさんの日系の方との出会い。日系人の方の思い。豊かな日本に住む私たちは、パラグアイに住む人々から学ぶべきことがたくさんあることを伝えたい。</p>	<p>・パラグアイの人々の写真</p>
------------	---------------------------------------	--	---------------------

【授業実践の様子】



絵本の読み聞かせ



「この写真を見て気が付くことない？」



「廃材から作った楽器なんよ」



「今日の学習で学んだことを書きましょう」

スラムにひびくバイオリン

(六)年 名前( )

○今日の授業で学んだことや、これからの自分に生かしたいことを書きましよう。

私は、今日の授業で学んだことはカテウラの町は、ゴミの山でそのゴミの中からリサイクルが出来るものをさがしてアードたちのバイオリン、キーボード、ギターなどの楽器を作れるということが、とても今日の授業で心にのびました。まず先生が話したように、日本はどれだけぐまれているのだろうと思いました。アードが、と手に入れたバイオリンアードの気持ちを考えてみることも、うれしかったと思

います。ほかの子もたちも手に入れた楽器、私のうれしさをこえていると思います。こんな町が、もどきれいになるといいなと思いました。



スラムにひびくバイオリン

(六)年 名前( )

○今日の授業で学んだことや、これからの自分に生かしたいことを書きましよう。

僕は、今日の授業で日本がすぐくめぐまれていること、あまりめめな心が大切だということがわかりました。他にも、あまりめめに続けることが大きな力につながるとなりました。今ももしかしたら、世界のどこか、カテウラの人たちが演奏していると思ったり、カテウラの人達は、ゴミをリサイクルしたもので演奏しているのかもしれない、と思いました。家に帰ったらカテウラの音楽家の演奏を聞いた場所を調べたいです。



スラムにひびくバイオリン

(六)年 名前( )

○今日の授業で学んだことや、これからの自分に生かしたいことを書きましよう。

私がカテウラの話を知り、カテウラは、二日に想像がつかないほどのゴミが、くるということがわかりました。そして日本では当たり前のこと、それがカテウラや他の国にと、当たり前ではないことを知って、びっくりしました。カテウラでは、二日にニドル(三百円)しか使えなくて日本では、二日に数千円くらい使っているの、お金を大切にしたいと思ったり、カテウラの人には、ゴミだけで暮らしているのです。こい、なと思ったりしました。カテウラの人にはリサイクルをしようというところがあるので、私もすぐに捨てずにリサイクルしたいです。



スラムにひびくバイオリン

(六)年 名前( )

○今日の授業で学んだことや、これからの自分に生かしたいことを書きましよう。

アードはカテウラの町にあるゴミの山を見て育って演奏したいと思ったり、バイオリンを演奏しているのを見て、とてもすごいなと思いました。かんは、てかんを演奏して、カテウラの人たちを元気にしたいと思ったり、バイオリンをひいているのはとても心に響きました。ゴミの中から楽器をつかえるようなものを、見つけて、その材料で楽器を作りたい音を出せるようにするのは、難しいか、なと思うけど、一人一人やりたい楽器があるのか、かんは、て作らなければいけないか、あったので、バイオリンを作りたいです。




【6】本時の振り返り

本校の児童は、高学年になると全員が金管楽器に取り組んでいる。授業をした時は、ちょうど音楽フェスティバルを控えて練習に励んでいる時期だったので、オーケストラの演奏にとっても興味をもった。ごみの山の中からリサイクル出来る物を探す仕事をしながら生活をしていること、一日2ドルほどのお金しか使えないという生活、そんな中で生活していた子どもたちが、リサイクル楽器を手にしたことで夢をもち、世界に羽ばたくことができたことが、絵本「スラムにひびくバイオリン」(汐文社)を通してよく理解出来たようだった。自分たちは、何の不自由もなく、学校にある高価な金管楽器を手にすることができているが、広い世界には学校に通うことも大変な子どもたちがいること、ごみがあふれる町に住む人々がいることに衝撃を受けたようだった。絵本と同時にカテウラの町の写真や音楽団の動画を見せたことも、効果的であった。私たちの当たり前の日常は、世界では当たり前じゃないことがたくさんあること、私たちは恵まれた環境の中で日々過ごしていることを改めて実感することができたようであった。貧しい生活の中でも、夢をもち、高価な楽器ではないけれど、日々練習に励み、廃材を使ったりリサイクル楽器でも本物のバイオリンに負けない音色を作り出した主人公アーダ。カテウラの町から世界に羽ばたいたアーダの生き方から多くを感じ、学ぶことができた。恵まれた環境に甘んじることなく、切磋琢磨しながら自分を高めていくような生き方をして欲しいと話してまとめた。

【7】単元を通じた児童生徒の反応/変化

私は、この授業をしてパラグアイは日本とかかありのある国なんだなと思いました。  
 一番びっくりしたのは、ごみの中かからバイオリンを作ったことです。すごいなと思いました。私も何か役立つ物を作りたいと思いました。

わたしは、日本とパラグアイには似ているところがあったり、日本の学校とはちがいがおかしなところもあって、半分の人が卒業できないと聞いて、おどろきました。午前中と午後のどちらか授業を受けて仕事をするのは、大変だと思いました。パラグアイはとて、遠いのに、日本と同じようなことがあて、いふなんて思いました。いろいろなごみでバイオリンもつて、美しい音がでてると思います。

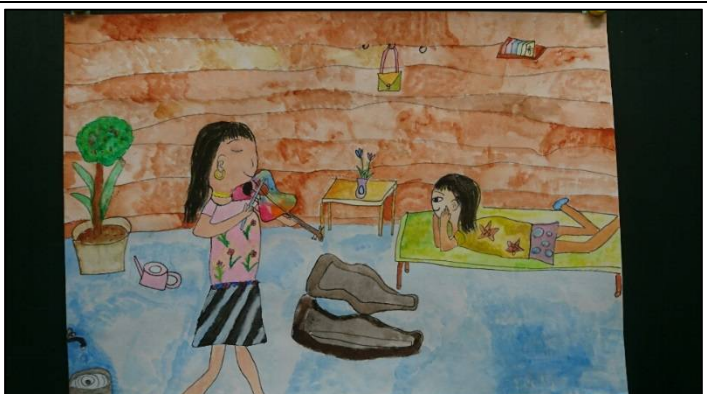


先生が話をしてくださった「パラグアイ」という国。その国はたいへん貧しい国と先生はおっしゃいました。その中でも「バイオリン」などの楽器に変えて音楽をかなでるすがたかとても幸せそうだと感じました。少しおどろいたのは、パラグアイの写真です。その写真は日本と同じ風景でした。先生がパラグアイに住んでいる日本人が日本の文化を大切にしているからと聞いてなっとくしました。自分もパラグアイに行きたいです。本当にすこく勉強になりました。本当にありがとうございました。

ぼくはクイズをとおしていろいろ  
 な国の日本とはちがう事を学びました。  
 クリスマスにふたを食べたり、リフレッ  
 シュするためひるねたりするのをと  
 ても興味ふかく聞いていました。パラ  
 グアイはすこくくらしたけど、ゴミ山の中か  
 ら、みんなが笑顔になれる物を作  
 って、楽しく生活をしているのは本当に  
 たいへんすこくすてきたと思  
 いました。最後にはパラグアイの風を  
 感じる事ができました。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

- 自主学习で行ってみたい国について調べた児童がいた。
- 単元が終了した後、図画工作科で読書感想画に取り組んだとき「スラムにひびくバイオリン」の本を選び、読書感想画を描いた子どもがいた。



【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

今回の授業後、たまたま「アフリカの子どもたちへランドセルを届けよう」という手紙が学校から配られた。これは、毎年3学期になると配られる配布物だが、児童は今まであまり関心をもつことはなかった。しかし今回、パラグアイに関する授業を行ったことで、「先生、私たちのランドセルがカテウラの子どもたちのように、貧しい国の子どもたちのためになるの?」と聞いてきた子どもたちがいた。その声をきっかけに、学級の中で「ランドセルを届けよう」という声が広がり、卒業式後にランドセルを持ってくる子どもたちの輪が広がっている。中には大切に置いていた兄妹のランドセルも含めて3個持ってくるという子どももいる。身近にできることから始めようとしている子どもたちの今後が楽しみだ。

## 【8】自己評価

1. 苦勞した点	<p>○ 子どもたちがパラグアイに興味をもつことができるように、単元の初め「パラ祭り」と題してチーパづくりをしたり、担任のパラグアイでの楽しい活動の様子を紹介したりしたために、パラグアイでは、「こんなおいしいものを食べているんだ。」「楽しそうだな」という面だけが先走りしてしまい、実は貧しい国で支援が必要な国であることをどう切り出していくか迷った。</p> <p>○ 子どもたちが、途上国であるパラグアイの国の現実を知り、貧しい国ではあるが夢や希望をもち、豊かな生き方をしている人々がたくさんいることを伝えるための学習展開に悩んだ。</p>
2. 改善点	<p>○ パラグアイには日本の移住者がたくさんいること、そこで成功し、日本を思いながら生活している人々がたくさんいることを、もっと子どもたちに知って欲しい。社会科の時間に取り扱いたいと思う。</p>
3. 成果が出た点	<p>○ 6年生は、社会科の教科書の最後に「世界の中の日本」の単元があり、そこで「日本とつながりの深い国々」や「世界の未来と日本の役割」について学ぶ。その中に国際協力を扱った内容があり、日本の支援を必要としている途上国の国々があることを初めて学ぶ。今回、こういった授業に先立って担任がパラグアイへ行ったこと、自分たちが書いた手紙がパラグアイに届いたり、担任が持ち帰ったパラグアイの子どもたちの作品を見たりすることで、自分たちが外国の子どもたちとつながったという意識をもち、未知の国「パラグアイ」を身近に感じる事ができた。</p> <p>○ カテウラのリサイクルオーケストラ団の話をするのに、絵本「スラムにひびくバイオリン」（汐文社）は、とても効果的だった。実際に撮ってきた写真や動画と共に話をすると、子どもたちはとても興味をもち、話の内容をよく理解することができた。学級文庫としてずっと置いていたが、クラスの子どものほとんどがその本を読んでいた。</p>

添付資料：

＜パラグアイ料理：チーパづくり＞

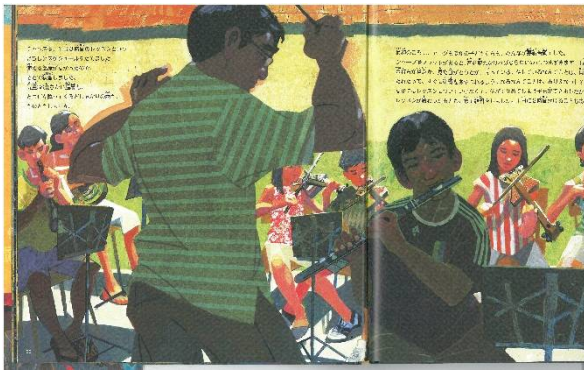
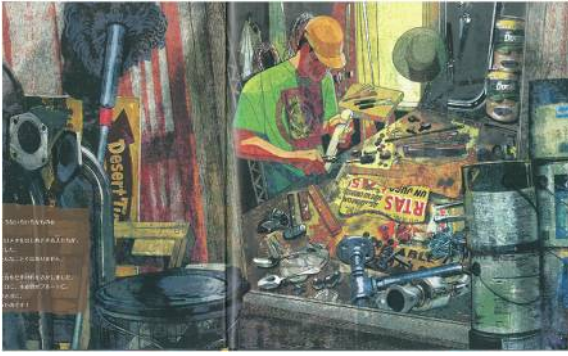






<絵本「スラムにひびくバイオリン」より一部抜粋>





<授業で使用したカテウラ音楽団の写真>



参考資料：

「スラムにひびくバイオリン」 汐文社  
スーザン・フッド/作  
サリー・ワーン・コンポート/絵  
中家多恵子/訳